

孝行教訓歌



孝行に徳を為す

孝行は徳を為す

徳を為す

父母の教を承る

徳を為す

徳を為す

父母を子乃成長

徳を為す

徳を為す

我公五帝此道也

目次

| | |
|-------|---|
| 目次 | 1 |
| 解説 | 1 |
| 凡例 | 2 |
| 孝行教訓歌 | 3 |

解説

「孝行教訓歌」について

「孝行教訓歌」は、当館所蔵の防府市台道内田家文書に残るものである（内田家和漢28）。タイトルが示すように、親に対する孝行の大切さを教え諭す48首の歌が収録された内容である。前書部分からすると、楞陽（りょうようカ）なる人物が、幕末、安政三年（一八五六）九月に作成している。

作成者の楞陽なる人物に関しては、現時点まったく不明であるが、前書を読む限り、「学誨園」と名付けられた寺子屋の主権者であったようである。父から孝行の大切さを教えられて育った楞陽が、「学誨

園」を主催し、村の子供たちを教える立場となったことから、あらためて父の教えをふりかえり、子供たちに孝行の大切さを伝えるために作成したという。48首いずれの歌も、親への孝行、感謝の大切さを平易に教え諭すものとなっている。

なお、内田家文書には、江戸時代、萩藩小郡宰判台道村（現防府市）の庄屋を務めた内田家の文書のほか、小郡宰判の大庄屋を務め、文人として著名な人物を輩出した台道村の上田家の文書、および畑村庄屋を務めた原田家の文書が混在している。楞陽なる人物の性格を考える上で、こうした点を考慮する必要がある。また本文書が、他地域で作成されたものの写本である可能性も十分考えられる。

実践講座での解説について

「孝行教訓歌」は、平成26年度山口県文書館古文書実践講座一班的テキストとし、これをすべて解説した。担当した一班的メンバーは以下のとおり。

上原智明・岡本秀次・賀屋昭夫・槌田久仁・長光未来・溝田秀司・和田稔
〈サポート〉和田秀作・山崎一郎・吉積久年（山口県文書館）

凡例

- 一、当史料は、平成26年度、山口県文書館古文書実践講座において受講生が解読したものである。
- 一、漢字は、原則として常用漢字を使用した。
- 一、改行や割注は原則として原本のままとしたが、意味をとりやすくするため改めた場合もある。
- 一、本文右上に小活字（ ）書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。
- 一、便宜上、各歌の上部に○番号①～④⑧を付した。



前書き部分後半と本文



「孝行教訓歌」の表紙

孝行教訓歌

孝行教訓歌

(表紙)

序文

序

予問父、夫学為何耶、曰明人倫要也、其本始自於孝而、后徳教則刑四海也、故汝常能慎而、以勿忘之、若亦汝教示村童、必先示孝道是則生前常之教也、于然予雖不

学、仍父之遺沢村童来而学、田家之児童輒不能得聖賢之大道、今顧父之遺命不顧賢者之嘲、詠蜂腰四十有余首而、以門人示其本、且欲備賢者之清眼、偏希添削而已

于時安政三歳丙辰秋九月

学誨園之主楞陽謹誌

孝行教訓歌

① 手習を子供にさすは

親の慈悲行義作法を
しらせんかため

② 我親に賜り使ふ

筆と墨平紙反古迄
荒増にすな

③ 読物や手本は重き

宝なり墨を付るな
大切にせよ

④ 読物や手本は一生の

道具なり手習止て
解な捨るな

⑤ 能慣へ揚字は親に

土産なり字形よければ
親の悦ひ

⑥ 慣すと揚字の字形

悪けれハ親の氣痛め
不孝なりけり

⑦千金に当る尊き

其文字を唯一字も

仇に書カクなよ

⑧手習に行も帰るも

度々に親に対して

挨拶をせよ

⑨新らしふ仕立し衣もの

洗ひしも母の手業と

戴て着よ

⑩常に孝病の時は

猶さらに医薬のことに

心尽せよ

⑪人間と生れ出たる

しるしには親の御恩を

送り返せよ

⑫わむばくな遊ひを捨て

父母に唯孝行の

道を守れよ

⑬父母の大恩何に

譬んか須弥滄海も

比へかたなし

⑭箸とらは食の味より

御仁政親の大恩

先へ味へ

⑮孝行は兄を敬ひ

弟を憐こゝろ

親の安心

⑯世の中に悪事様々

多けれと其大罪は

不孝なりけり

⑰孝行の一筋道を

守るへし世間悪事の

道に迷ふな

⑱唐土の二十四孝の

人は皆聖賢君子

智仁勇者ぞ

⑱ 孝行に悪心持す

悪業せず悪口言す

仕業精出せ

⑳ 父母の我を召なら

飛立て返事は急

忽にゆけ

㉑ 父母は子の成長を

よろこひて身に経る歳は

忘れ玉ふそ

㉒ 我心五常の道を

全ふに親の賜

己か穢すな

9

㉓ 物盗み喧嘩空つき

錢遊ひ仕業不精の

本は不孝ぞ

㉔ 子の噂聞親の耳

敬ンハタチて悪評あれは

呵責なりけり

㉕ 父母に言葉返しや

口答へ荒き言葉を

深く慎しめ

㉖ 六つかしき物と思ふな

孝行は唯あいくの

返事なりけり

10

㉗ 父母の使に出て

遊ふなよ用事済して

速く帰れよ

㉘ 孝行の二字を守りて

悪業せず身に備りし

仕業精出せ

㉙ 忠孝を兼備してこそ

忠士四十七人

事親孝
為君討仇

四十七士末の世までも

武士の明鏡

㉚ 淹の水酒となりたる

養老淹水変酒

美濃の国苦せず勞せず

老を養ふ

11

③① 藿や藜を喰ふて

子路
負米
養親

百里の道の重荷て

親を養ふ

③② 時ならぬ母の望の

子崇泣竹
笋生

掘出しける

③③ 継母の言葉背かぬ

王祥剖氷躍鯉

生た魚氷の上に

鯉を躍らす

③④ 蘆ろの衣親を恨みぬ

閔子騫
单衣順母

孝行に母も慈愛に

三子均平

③⑤ 孝行に子を埋めんと

郭巨埋兒
得金

ほる穴に光り耀く

金の釜かな

③⑥ 奉職の暇の登山に

仁傑望雲
思親

しら雲の飛をなかめて

親に孝養

③⑦ 虎の前危き命

楊威
虎前
免害

孝心の天に通して

害をまぬかる

③⑧ 唐夫人齒のなき母に

唐夫人乳姑

乳房して食を断ても

不老長命

③⑨ 恐しや不孝の報ひ

天の罰班婦西夢か

末そ浅まし

④⑩ さまざまに聖の教

多けれど先づ第一は

親に孝行

④⑪ 世の中の徳の基本

尋れハ唯孝行の

二字にそありける

④⑫ 神仏へ手足を運ひ

本朝
孝子伝曰
両親即是
内宮外宮神明
也、汝等不善
事之而祈求於外乎

祈らすと先づ我家の

親をうやまへ

(14)

⑬父母に孝行尽す

人は皆神仏守護の

隣愍である

⑭我からた我身の物と

身体髮膚不毀傷

思ふなよ首あし迄

孝之始也

親の賜もの

⑮孝行の二字を守らぬ

人そみな人の面着た

こゝろ獣

⑯生物の王たる人か

不孝して禽獸に

比へられなき

(16)

⑰怖ろしや尊き聖の

五刑之屬二千
而鼻莫大

御金言三千の鼻より

於不孝

重き不孝と

⑱孝経の如くせされは

米子就伝授以孝経

人は皆人にあらずと

一闋題其

米子の金言

上曰不若是非人

(終)